みささぎ
奈良大学図書館報
第17号
2013.　6

企画展示「奈良大学図書館所蔵の文化財修理報告書」について

文学部文化財学科 准教授　魚　島　純　一

はじめに

奈良大学に着任してちょうど１年目に、奈良大学図書館の企画展示を任されることになった。最近収書した建造物の修理報告書を中心にした展示という以外には、これといった制約はなかったので、とりあえず図書館にどのような資料があるのかを見てから展示を組み立てることにした。収書の状況を確認するため図書館地下の文化財修理報告書が並んだ開架の書棚を見て驚いた。奈良大学には文化財学科がある関係から、遺跡などの発掘調査報告書がたいへん充実していることは以前から知っていたが、建造物や仏像などの文化財の修理報告書がこれほど充実しているとは想像もしていなかったからだ。各発行機関からの寄贈や購入など、さまざまな方法で集められた文化財修理報告書の数は、優に1000点を超えるものであった。

そこで、一般にはもちろん、奈良大学の学生にもあまり知られておらず、十分に活用されているとは言えないかもしれない文化財の修理報告書に焦点をあて、いくつかの視点で選び出したものを中心にして、文化財の修理・保存の世界の一端を紹介する展示として「奈良大学図書館所蔵の文化財修理報告書」と題した展示（2013年４月１日～2013年６月29日、奈良大学図書館展示室）を企画した。短期間の展示で、他に記録などが残ることもないようなので、以下、おおむね展示のテーマに沿って、展示資料に関わる情報などを簡単に記しておきたい。

１. さまざまな修理報告書

文化財の修理（工事）にあたっては、その内容を詳細に記録した報告書が刊行されることが多い。寺社や城郭など有名な文化財はもちろんのこと、仏像や民家、はたまた最近急速に増えつつある近代建築まで、実に多くの種類の文化財の修理報告書が発行されている。

文化財の修理（工事）の際には、それに伴って多くの調査がおこなわれる事がある。修理の際にしか見ることができない部分を調べたり、その時にしかおこなえない調査ができるからだ。文化財の修理報告書には、修理そのものはもちろんのこと、そのような調査を詳細に記録し、次世代に伝えるという大きな目的があるのだ。このような文化財の修理報告書の持つ意義を伝え、また、調査によってわかった事実を読み解くなどの意外な楽しみ方を知ってもらうことも今回の展示の目指すところである。

トピックとして鎌倉大仏として有名な神奈川県鎌倉市にある高徳院の『高徳院国宝銅像阿弥陀如来坐像修理工事報告書』（1961）を取り上げてみた。

ご存知の方も多いだろうが、鎌倉大仏は古都鎌倉のシンボル的な存在であり、国宝に指定されている高さ約13mの金銅製の中空の仏像である。奈良・東大寺の大仏とは異なり、仏像を覆う建造物がなく、露天にさらされた状態であるため、長年の風雨による劣化や何度かの地震の揺れなどによ

り、頸部に亀裂が入るなどして、最悪の場合、頭部が落下することも考えられたため、昭和34～36年（1959～61）に台座を含め大規模な耐震補強のための修理工事がおこなわれた。修理工事では、材質調査などを含めたさまざまな調査もおこなわれ、亀裂が入った頸部は当時としては最先端の技術であった強化プラスチックなどを用いた強化処理がおこなわれたのである。

『修理工事報告書』をひもとくと、鎌倉大仏の材質は、銅が約69％、鉛は約20％、錫（すず）が約９％程度の青銅であることがわかる。また、台座部分の補強工事をおこなうにあたって、大仏像を持ち上げる必要が発生し、23基のジャッキを用いて２度にわたって約50㎝ほど持ち上げたという。その際ジャッキにかかった負荷の合計から、鎌倉大仏の体重はおよそ121トンであることがわかったことも記されている。まさに鎌倉大仏の“体重測定”、実におもしろいとは思いませんか？

２.伝統建築の修理

寺社や城郭などの伝統的建築物は、数十年から100年程度の周期で解体修理がおこなわれる。解体修理とは、建物を部材単位にまで完全に解体する修理のことだ。傷みが激しい部材は部分的な補強が施されたり新しいものに置き換えられたりするが、健全な部材はそのまま再び組み立てられ、元の姿に戻される。これにより、当時の建築技法を知ることも可能となる。

大規模な寺社では、複数の建物について継続的に保存修理がおこなわれることも多いため、数十年にわたって多くの修理報告書が刊行されることも少なくない。

展示では、日本初の世界遺産として有名な法隆寺や、同じく近年世界遺産に指定された岩手県・中尊寺、弘法大師の寺・東寺として有名な京都・教王護国寺の修理報告書を取り上げた（これらの修理報告書の一部は、平成23年度の奈良大学図書館特別集書の対象となり、同年度の私立大学等研究設備整備費等補助金対象として申請・採択されたものである）。いずれも、展示した以外にもすでに多くの報告書が刊行されており、今後も増え続けていくことと思う。

近年では、伝統的な解体修理にあわせて、科学的な調査手法も取り入れられ、多くのことがわかるようになってきていることも、文化財の調査として楽しみなことである。

３.仏像の修理

奈良大学図書館が所蔵している仏像などの修理報告書は、建造物に比べると実はそれほど多くはない。そんな中でひときわ目を引くのが、このコーナーに展示した『東大寺南大門国宝木造金剛力士像修理報告書』（1993）である。

この『修理報告書』は、昭和63～平成５年（1988～93）にかけておこなわれた造像以来初となる解体修理の記録であり、本文編、図版編、図面編の３部からなる大部である。

本文編にある目次を見てもわかるように、その内容は修理報告のみにとどまらず、きわめて多岐にわたり、漆や顔料、釘・鎹（かすがい）などの材質分析についても詳細に報告されている。この解体修理は、像内から多数の納入品や墨書が発見されたことでも注目を浴び、一般向けの書籍として『仁王像大修理』（1997）などが刊行されたり、修理のようすをまとめた番組がNHKで放映されたり（2004）もしている。

解体修理の際に得られた多くの情報をできる限りすべて記録して後世に残すという報告書への意気込みが強く感じられる名著であるといえる。

４.近代建築の修理

登録文化財の制度ができたこともあり、近年は文化財に指定される近代建築（おもに明治・大正期の建築物）が急増している。これらの建物の多

くは、最近まで利用されていたり、あるいは現在も利用されていることから、活用を前提とした保存修理が数多くおこなわれ、修理報告書も多数刊行されるようになってきた。

展示では、現在京都文化博物館の別館として利用されている旧日本銀行京都支店の修理記録である『重要文化財旧日本銀行京都支店修理工事報告書』(1988) や、赤レンガ建物の代表として有名な大阪・中之島の中央公会堂の保存再生工事の記録である『重要文化財大阪市中央公会堂保存・再生工事報告書』(2003) などを扱っている。

５.災害後の修理

平成７年 (1995) １月17日早朝、近畿地方を襲ったマグニチュード7.3 (最大震度７) の巨大地震は、文化財にも大きな被害を与えた。兵庫県神戸市にある旧神戸居留地十五番館も被害を受けた文化財の一つである。

十五番館は、平成元年 (1989) に重要文化財に指定され、まもなく保存修理工事がおこなわれた。工事は1993 (平成５) 年に竣工し、建築当時の姿を取り戻した。この際の記録として、『重要文化財旧神戸居留地十五番館保存修理工事報告書』(1993) が刊行された。

しかし、保存修理工事の竣工からわずか２年、阪神淡路大震災の大きな揺れに襲われた十五番館は、完全に倒壊してしまい瓦礫の山と化してしまったのである (写真)。

下の写真は、震災発生の約２週間後、筆者らが神戸市内の被災状況の確認と博物館復旧作業の応援に向かった際に撮影したものである。周辺の道路は、アスファルトに亀裂が入り大きく盛り上がり、自動車が通ることができないのはもちろんのこと、歩くこともままならない状況であった。また、あちらこちらで鉄筋コンクリート造のビルがまるごと傾き、今にも倒れそうな状況を目にしたことを今も鮮烈に思い出す。

これが重要文化財に指定された洋館づくりの建物であったことなど想像することさえできない完全に瓦礫と化した旧神戸居留地十五番館は、しかしながらその直前におこなわれた修理保存工事の詳細な記録が残っていたこともあり、容易に復元が可能であると判断され、免震や補強工事も加えられて、２年ほどで再び完全に元どおりに復元され、現在私たちはその美しい姿を目にすることができるのである。阪神淡路大震災後の復旧工事の記録として刊行されたのが『重要文化財旧神戸居留地十五番館災害復旧工事報告書』(1998) である。

この２つの報告書は、奇しくも、文化財の修理に際してその記録として修理報告書を刊行し次世代に残すことの重要性を私達に教えてくれているのである。

阪神淡路大震災で倒壊し瓦礫の山となった旧神戸居留地十五番館
(1995.1.30撮影)

今回の展示では、このようにいくつかの視点で文化財の修理報告書を取り上げて、スポットをあてることを試みた。もちろん、今回取り上げることができなかった報告書にも、これまで知らなかったようなさまざまな興味深い事実が隠されていることだろう。さあ、奈良大学図書館の文化財修理報告書をひもといて文化財保存・修理の世界をのぞいてみませんか。

図書館統計　<2013年３月末現在>

	平成23年度（2011）	平成24年度（2012）	増　減
開館日数	273	272	▲　1
入館者数	125,763	120,049	▲ 5,714
図書所蔵数	431,704	437,729	6,025
（和）	390,179	395,991	5,812
（洋）	41,525	41,738	213
雑誌タイトル数	6,175	6,268	93
貸出総数	47,267	45,698	▲ 1,569
相互協力利用（依頼数）	445	358	▲　87
相互協力利用（受付数）	1,076	1,049	▲　27

図書館展示報告（平成24年度）

図書館展示室では平成24年度に、下記のテーマで企画展を開催しました。企画立案からパンフレット作成まで、全面的にご協力いただいた各先生方に深く感謝いたします。

今後も本学の特色を活かした展示を実施していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

	回	テーマ	企画	会期
24年度	1	竹久夢二著作展　～本で見る大正ロマン・夢・郷愁の世界～	藤本寿彦教授	４月２日～６月15日
	2	大鏡と大観：２つの南都古寺写真集	森田憲司教授	７月10日～９月15日
	3	西安碑林全集を見る		10月１日～11月15日
	4	香港の新聞『大公報』とその周辺Ⅱ	芹澤知広教授	12月12日～３月20日

後　記

「みささぎ」第17号をお届けいたします。まず、原稿をご執筆いただき、図書館展示にご協力いただきました文学部文化財学科 魚島純一准教授には心よりお礼申し上げます。

今年度も、今回の展示を含めて今後２回の開催を予定しておりますので、図書館来館時には是非ご覧になってください。「みささぎ」につきましても、18・19号（11月・来年３月予定）を発刊させていただく予定です。お楽しみに。　（編集担当）

発行：平成25年６月25日
編集：奈良大学図書館　奈良市山陵町１５００